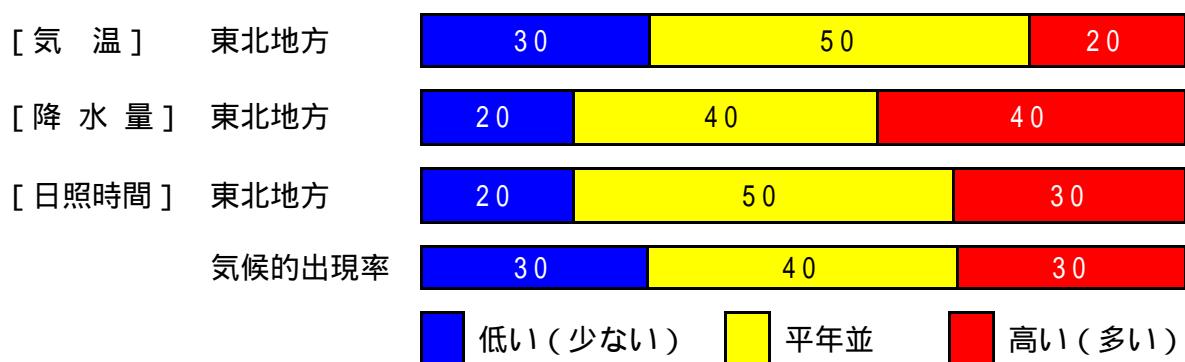


東北地方1か月予報の解説(予報期間:4月1日~4月30日)

平成12年3月31日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「低い」で、その確率は30%です。「高い」の確率は20%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」か「多い」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

東北地方は、この期間低気圧と高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。低気圧の通過後は一時寒気が入り、気温の変動が大きい見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数は、東北日本海側で約19日、東北太平洋側で約20日です。

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… (4月1日~4月7日) 期間の中頃に低気圧が通過し、天気がくずれるでしょう。他の日は、寒気の影響で東北日本海側では雨か雪の日が多いですが、東北太平洋側では沿岸部を中心におおむね晴れる見込みです。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約4日、東北太平洋側で約5日です。

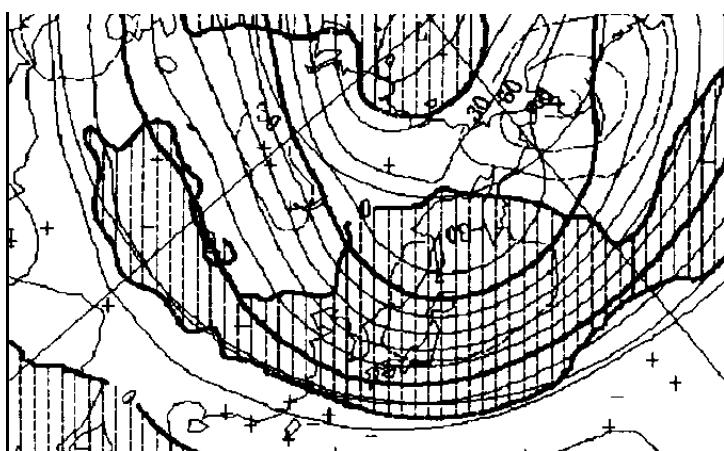
2週目…………… (4月8日~4月14日) 低気圧と高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約4日、東北太平洋側で約4日です。

3~4週目…………… (4月15日~4月28日) 低気圧と高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約9日、東北太平洋側で約9日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

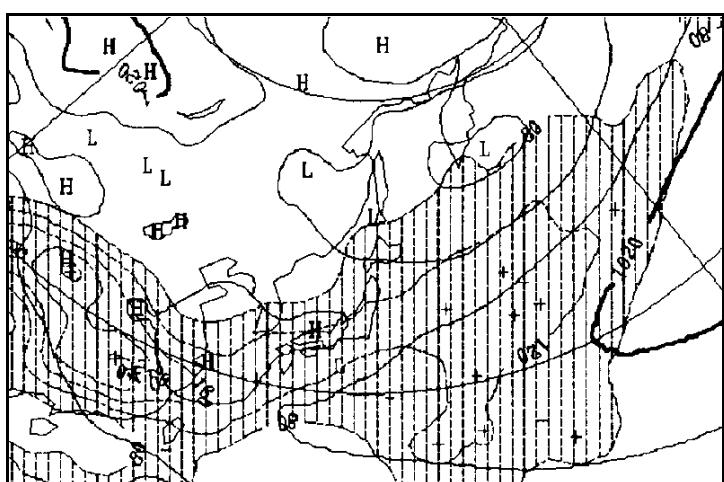


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線 : 60m 毎、偏差 : 30m 毎、陰影部 : 負偏差)

- 500hPa 高度・偏差

月平均では日本付近は東西に広く負偏差に覆われ、バイカル湖付近やアラスカでは正偏差となって寒気の入りやすいパターン。日本付近の流れは東西流が卓越しており、天気は周期的に変化するが、低気圧の通過後には一時寒気が入る見込み。

週別（図略）でみても、日本付近は期間をとおして負偏差に覆われる。



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線 : 4hPa 毎、降水量 : 40mm 毎、陰影部 : 80mm 以上)

- 地上気圧と降水量

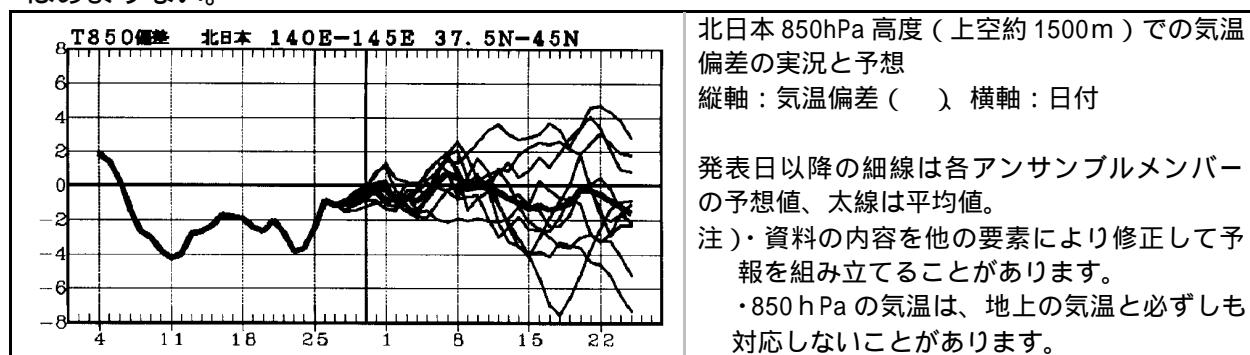
月平均でみると、西日本から大陸にかけては高気圧、カムチャツカ半島には低気圧があって南西に低圧部が広がる。このため、基本的には天気は周期的に変化するが、日本付近を通過する低気圧は発達しやすく、天気が大きく崩れる可能性がある。また、低気圧の通過後は一時寒気の南下もある見込み。また、日本付近には降水域が東西に広がり、本州南岸沿いに比較的明瞭である。

週別（図略）では、1週目、2週目とも月平均と同様な特徴を示すが、3~4週目にはカムチャツカ半島付近の低気圧は不明瞭となる。

3. 北日本 850 hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850 hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると、3月のように負偏差が持続するのではなく、ほぼ平年並程度で変動する予想となっている。ただし、2週目以降ばらつきが大きく、信頼度は小さい。

なお最近の実況では、東北地方の地上気温平年差は、北日本 850 hPa の気温平年差が負偏差の場合は 2 度程度高めに推移している。ただし、正偏差の場合は地上気温と 850 hPa 気温の差はあまりない。

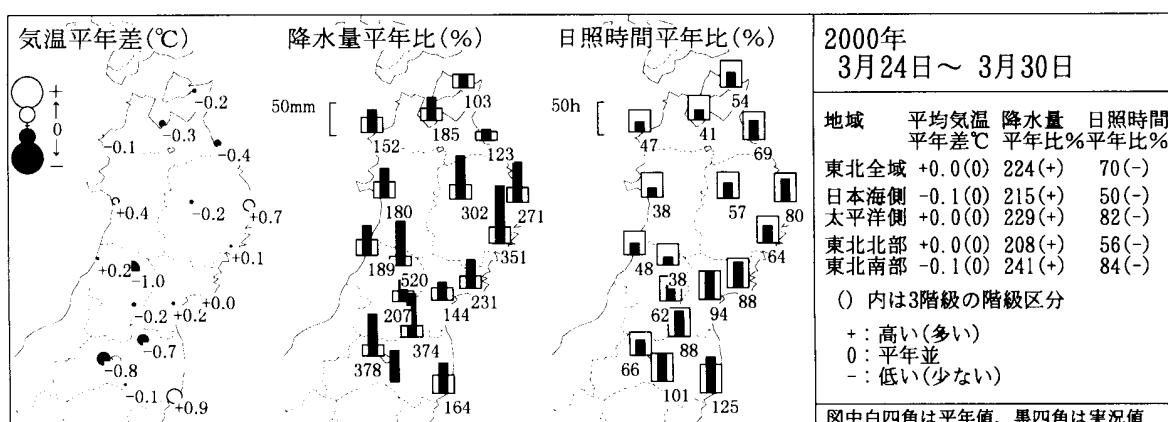


注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間（3月24日～3月30日）の天候の経過

24日に北海道を発達中の低気圧が通過したため、東北地方は全般に雨となった。低気圧の通過後は強い冬型の気圧配置となり、東北日本海側や東北太平洋側の山沿いでは雪の日が続き、大雪となった所もあった。東北太平洋側の沿岸部では晴れた。27～28日は冬型の気圧配置も緩み、高気圧に覆われて晴れたが、29日には再び日本海を低気圧が発達しながら進んだため、東北地方は全般に雨となった。30日は、宮城県で暴風が吹き荒れ被害が発生した。

平均気温は、寒暖の変動が大きかったが、東北地方で平年差 0.0 と平年並だった。降水量は、東北地方で平年比 224% と多かった。日照時間は、東北日本海側で平年比 50%、東北太平洋側でも平年比 82% と共に少なかった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）